

日光東町まちづくりスタートアッププロジェクト

建築都市デザイン学科 大嶽陽徳、安森亮雄
日光東町まちづくり推進委員会 阿久津新平
NPO法人日光門前まちづくり 岡井健

プロジェクトの目的

本プロジェクトの対象地域である日光東町は、「日光の社寺」の門前町として発展してきた。しかし、近年は歩道や商店の老朽化が目立ち、世界遺産の社寺の門前町としての機能や魅力を必ずしも満たすものになっていない。そうした状況のなか、国道119号および沿道の拡幅・整備事業を契機に、2000年頃から日光東町のまちづくりに関する取り組みがなされてきた。これまでに、日光東町を構成する6地区のうち、日光駅側の3地区において、建物のデザインコードなどの規範を作成し、それに基づいてまちづくりが実施されてきたが、必ずしも生き生きとした魅力的なまちがつか

てきたとは言い難い。今後は、社寺側の3地区において、国道119号および沿道の拡幅・整備事業の実施とともに、まちづくりのための取り組みがスタートされる予定である。そこで、本プロジェクトでは、日光東町の社寺側の3地区において、「日光の社寺」の門前町として相応しい魅力的なまちをつくるための取り組みのスタートアップを目的として、これまでの日光東町のまちづくりに関する調査、他地域の先駆的なまちづくりの事例に関する調査、日光東町の住民がこれからの街並みについて考えるシンポジウムの企画などを実施する。

【リサーチ】日光東町の歴史とこれまでのまちづくりの取り組み

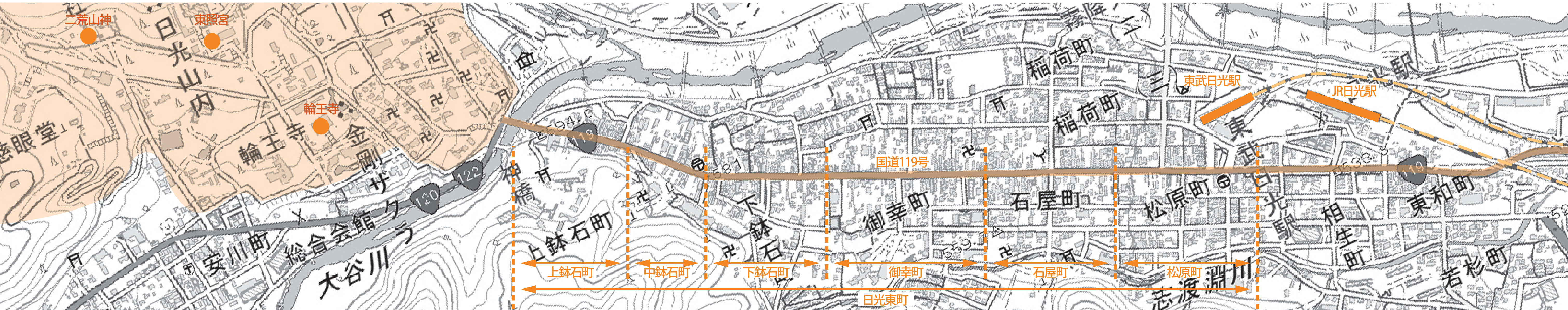


図1. 日光東町全体地図

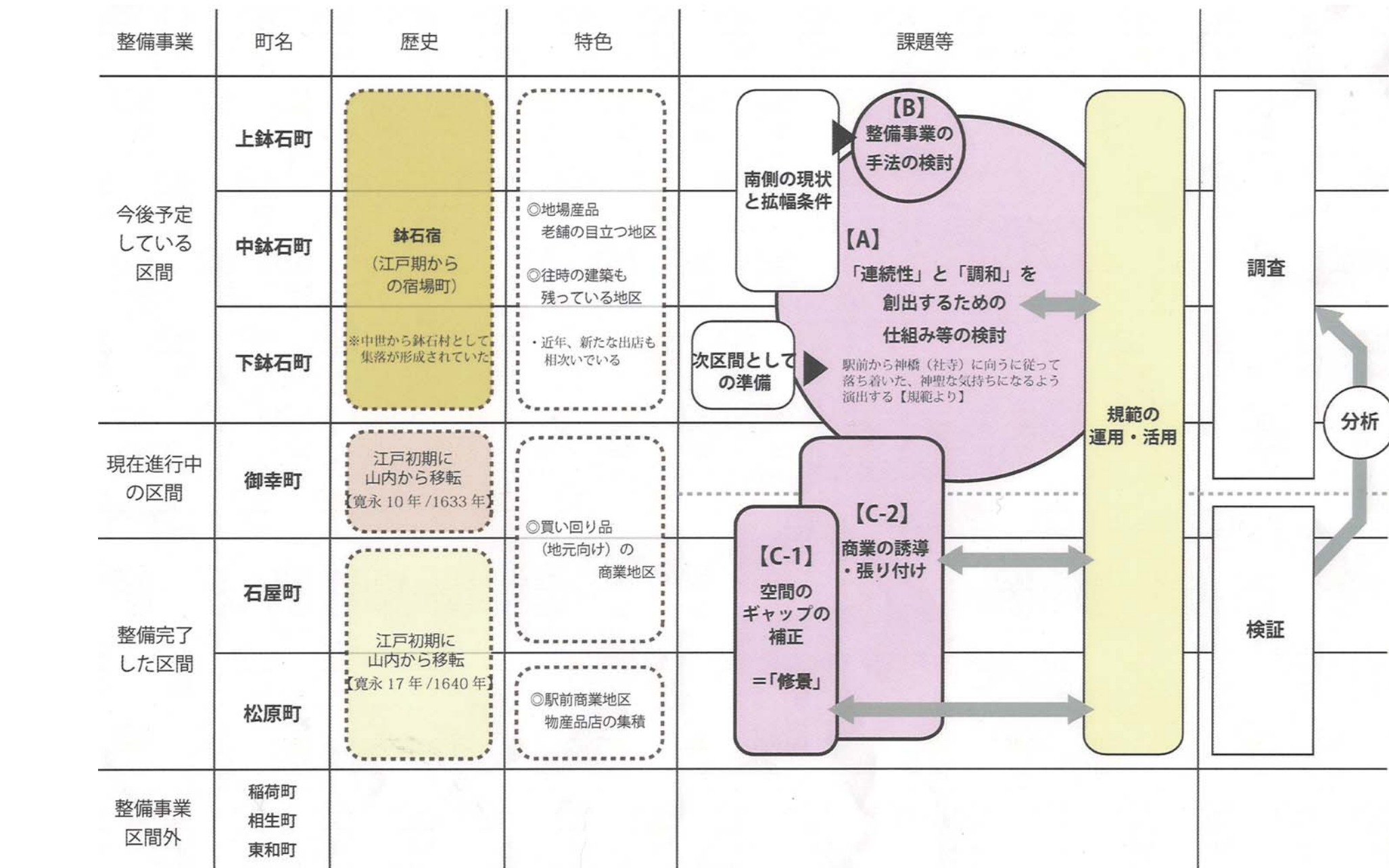


図2. 日光東町の歴史とまちづくり

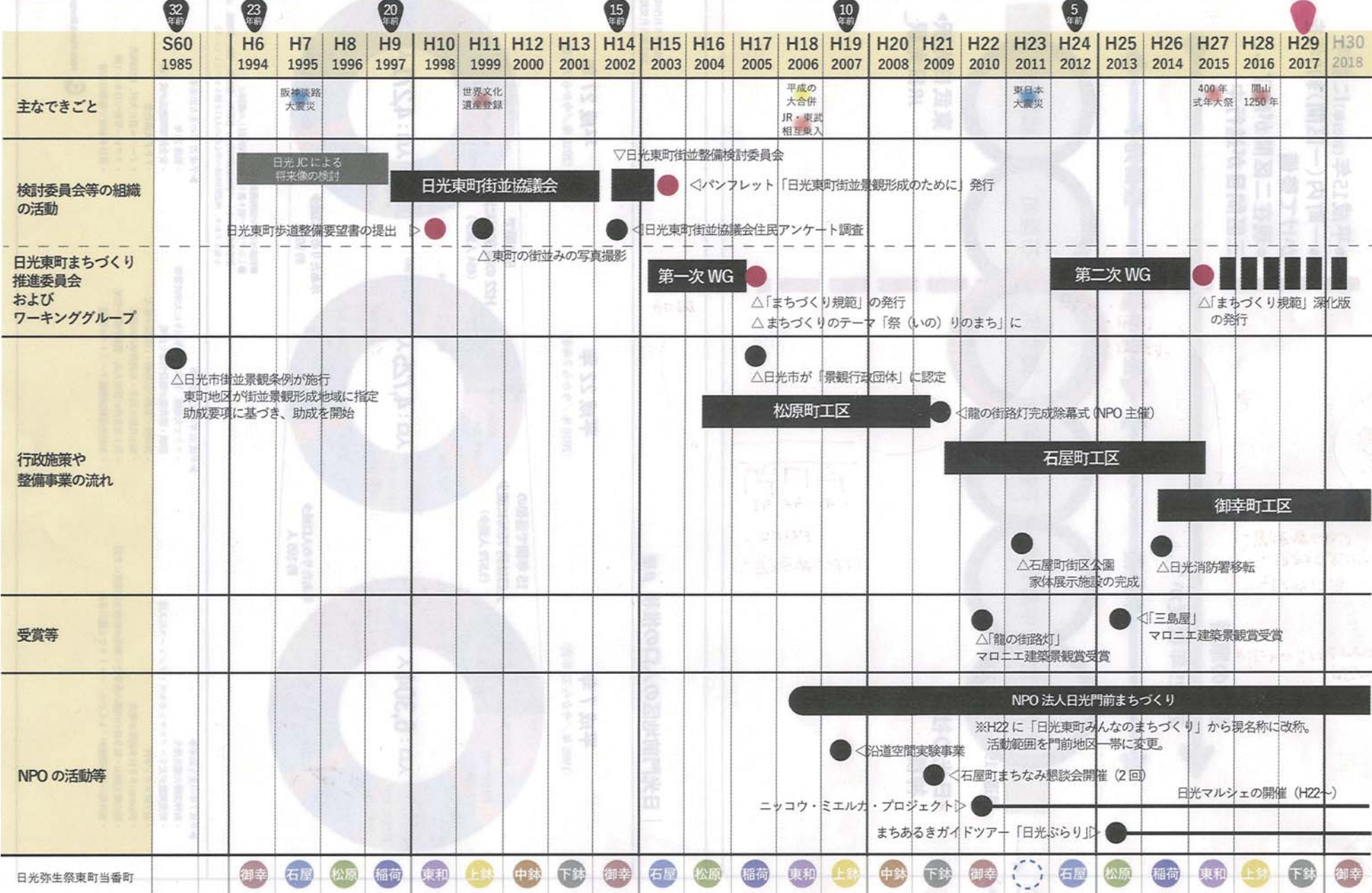


図3. 日光東町のまちづくりの経緯

日光は、古くから山岳信仰の場として栄え、江戸時代に東照宮が造営されると門前町として発展してきた。日光東町は、その門前町であり、日光駅から山内へ向かって、松原町、石屋町、御幸町、下鉢石町、中鉢石町、上鉢石町の6地区で構成されている(図1)。それぞれの地区の歴史やこれまでのまちづくりの取り組み状況を調査して、図2、図3にまとめた。

山内側の下鉢石町、中鉢石町、上鉢石町の3地区は、古くから宿場町として発展してきた場所であり、現在は観光客向けの老舗が多い。一方、日光駅側の松原町、石屋町、御幸町の3地区は、江戸初期に山内から移転したきて形成された場所であり、現在、最も駅に近い松原町は駅前商業地区として、石屋町と御幸町は地元住民向けの商業地区としての性格が強いといえる。

こうした状況のなか、国道119号の道路および沿道の拡幅・整備事業を契機に、2000年頃からまちづくりに関する取り組みがなされており、これまでに、日光駅側の3地区において、建物のデザインコードなどの規範を作成し、それに基づいてまちづくりが実施されてきたが、必ずしも生き生きとした魅力的なまちがつかつてきたとは言い難い。今後は、社寺側の3地区において、国道119号および沿道の拡幅・整備事業の実施とともに、まちづくりのための取り組みがスタートされる予定である。

【ワークショップ】まちなみミニ調査



- ①[石屋町・整備後] 石屋町のまちなみ
建物高さ、間口などのスケールが連続している
- ②[石屋町・整備後] 調和した三軒のまちなみ
中央の建物は、両隣の建物のデザインをみて、設計した。
→両隣や周囲とコミュニケーションが取れる仕組みが有効
- ③[松原町・整備後] 建物前の空地
建物前の空地が周囲のまちなみと不連続にさせてしまう
→空地ができることを前提とした規範の作成が必要



- ④[松原町～下鉢石町] 空地活用の事例
空地を積極的に活用したもののみもみられた
→空地に対する規範の参考



- ⑤[松原町～下鉢石町] 路地空間
奥行きのあるまちになる可能性がある



- ⑥[松原町～下鉢石町] 町屋の系譜
町屋という共通した特徴をもった建築が時代ごとに建てられることで、特徴的なまちなみがつけられている



【シンポジウム】川越から学ぶ街並みづくり



写真 シンポジウムの様子

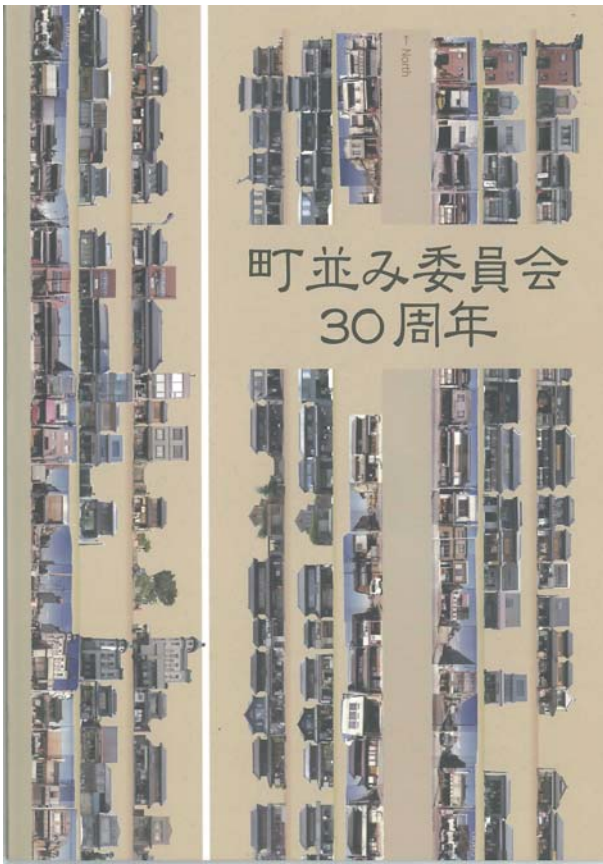


写真 川越のまちづくりに関するパンフレット

【リサーチ】小布施のまちづくり現地見学



写真 小布施のまちなみ1

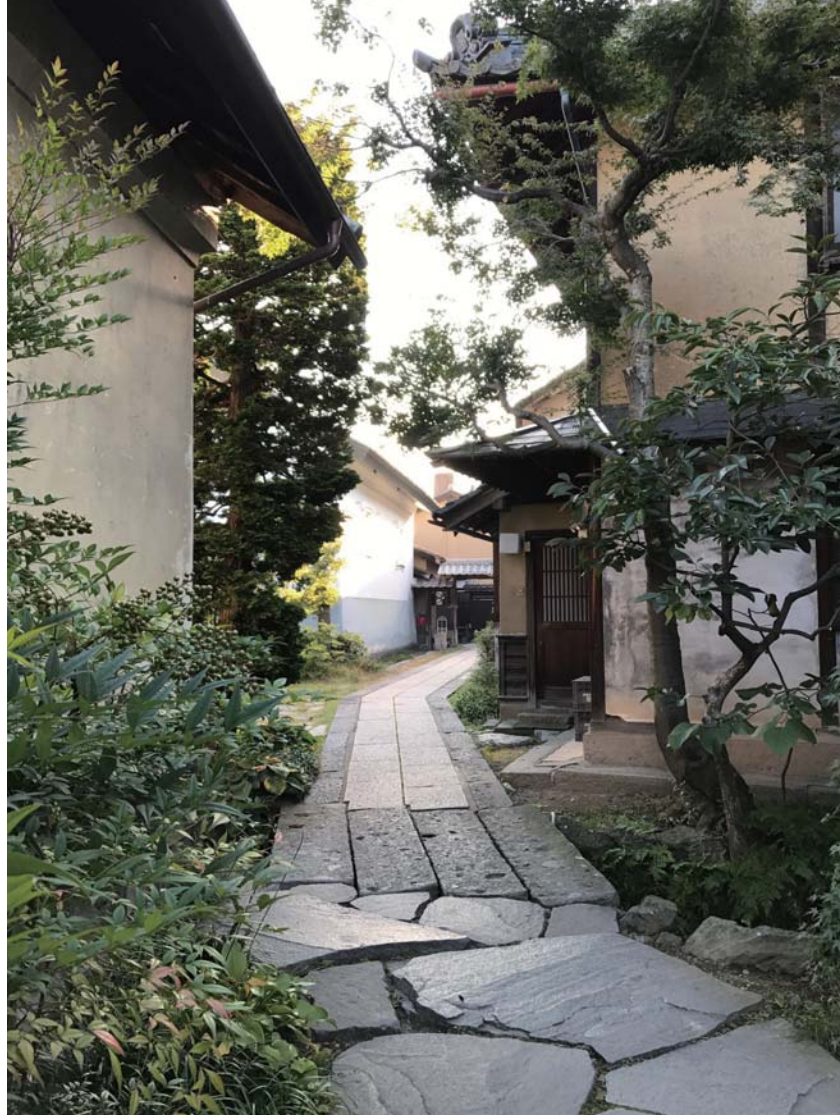


写真 小布施のまちなみ2